

【悪魔】 最近施行された後期高齢者医療制度は、ずいぶん不評のようですね。政府の中でも見直し案が議論され始めそうな様子ですが、どこに問題があったのですか？

【天使】 制度自体にそれ程問題があったわけではない。高齢者の医療制度は、これまで国や地方公共団体、健康保険などの拠出金により運営されてきたが、社会全体の高齢化の進展により財政負担が増加し続けている。また、単身世帯では保険料を個人負担しているのに対し、元給与所得者の被扶養者などは保険料の支払が不要とされていたり、地域ごとに保険料の減免措置が異なるなど、個人間の取り扱いの不公平さも徐々に問題視されてきた。そこで、全国一律の、かつ、他の健康保険制度から独立した新たな制度として後期高齢者医療制度、通称長寿医療制度が施行され、個人間の保険料等の格差を可能な限り解消しようとしているわけで、むしろ従来よりも問題が少なくなっているはずだ。

【悪魔】 でも、おっしゃったような制度理念は、すべてのお年寄りが健康状態も経済状態も

# 悪魔と天使の 法学入門

筑波大学准教授 星野 豊

第17話

## 後期高齢者医療制度

ほとんど変わらない、ということを前提としていませんか？ あまり目立たないけど地域によって物価だつて違っていたりするわけですよね。形式的に公平な制度は、かえって不公平を増すように思うんですが。

【天使】 現在のわが国が個人の自由主義を前提としている以上、多少の個人間の状況格差が生ずることはやむを得ない。公的制度に対する関係であまりに細かく個人の状況を考慮しようとする、かえって制度運営のコストがかかって逆効果となる恐れがある。それに、そもそも、後期高齢者医療制度に加えられている批判は、制度理念自体に対するものというよりも、むしろ新たに年金から保険料が特別徴収、つまり天引される点から生ずる負担感から生じているものと考えられる。高齢者医療に関して財政負担が増加し続けている現状を放置することは、極端な場合には高齢者医療制度全体の崩壊を招くことになりかねないから、制度を国民全体で支えていく必要があることを、時間をかけて説明していくほかないだろう。

【悪魔】 金が足りなくなりそうだから、全員からまんべんなく、あらかじめ取っておく必要がある、というのは、どの制度でもあることですが、それならこれまでの金の使い方はどうなっていたんだ、というある意味で当然の要求も出てきそうですよね。それに、医療費財政が圧迫されるようになった一つの理由には、医療費自体が増加してきていることもあるはずですね。でも、今回の制度で、医療費自体の抑制は本当にできるんですか？ 保険料を払わなければならなくなった人たちは、無償であった時代よりも医療を受けることを迷わなくなるでしょうから、全体としての医療費はさらに増加していくような気もするんですよね。

【天使】 健康で文化的に生きることが国民のすべてに与えられた基本的な人権の一つだから、随時に適切な医療を受けることができる体制や制度を整えることは、国の重要な責務の一つである。仮に一時的に医療費の総額が増加する事態が生じたとしても、国民全体が適切な医療を受けられるという安心感が定着すれば、多少の混乱は早期に収まるのが期待できるだろう。



比較法的に見ても、わが国の健康保険制度は、世界の模範となるような広範囲な医療サービスを国民に保障するものとなっており、その維持と発展が国際的にも望ましいものと言える。

【悪魔】 制度の建前はその通りなんですけど、健康が損なわれたときの保障を手厚くすることと、国民の健康を増進しようとすることは、少し次元が違うように思いますね。極端な話、全員が病氣や怪我になったら、医療保険制度は完全に崩壊しますから、大多数の人は大した病氣や怪我をしない、という前提で制度は成り立っているはずなんです。でも、今の制度では、健康に注意し続けて、全く医療を必要とせず一生を終わった人は、単に保険料を支払っただけで見返りは全くなし、という結果になるわけでしょう？ 健康な人の方に利益が行くようにしないと、「国民の健康」とやらは増進しないんじゃないやありませんか？ まあ、誰も好んで病氣や怪我をしようとは思っていないんでしょうけれど、病氣や怪我にならない方が長期的に見て損をする制度、というのも、ずいぶん変な感じがするんですよねえ。